

令和4年度全国安全週間を迎えるにあたり

～労働災害のない職場づくりに向けた労働局長メッセージ～

7月1日から7月7日までの全国安全週間は、「人命尊重」の基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に、昭和3年から一度も中断することなく実施され、今年で95回目を迎えます。この間、労働災害は関係者の不断の努力により、長期的には着実に減少しておりますが、近年は新型コロナウイルス感染症り患、あるいは高年齢労働者の被災増加に伴い、労働災害が増加しているところです。

兵庫県下においても、令和3年の休業4日以上死傷者数は5,967人と、前年より586人(10.9%)増加しました。事故の型別では、「転倒」、次いで「動作の反動・無理な動作」といった労働者の作業行動に起因する労働災害、いわゆる行動災害の増加が顕著です。

本年の労働災害を見ますと、5月27日時点において、既に12人もの労働者の尊い命が失われ、前年同期と比較して大幅に増加しており、死亡災害の増加に何としても歯止めを掛けなければならない状況にあります。

なかでも製造業での死亡は5人、うち3人が機械等への「はさまれ、巻き込まれ」によるものとなっておりますが、このような災害の防止には、兵庫労働局が推進する「兵庫リスク低減MS運動」に参加していただき、リスクアセスメントを継続的に行うことで、職場の残留リスクを可能な限り低くしていただくことが有効です。また、従来から死亡災害につながりやすい墜落・転落災害の防止につきましては、兵庫労働局が展開する「STOP! 墜落・転落災害根絶キャンペーン」に連動した墜落制止用器具の装着と適正な使用の徹底など、高所作業を行う労働者の命を守るための取組をお願いします。

さらに、近年増加が著しい転倒災害や高年齢労働者の労働災害の防止対策としては、「STOP! 転倒災害プロジェクト」の展開並びに「エイジフレンドリーガイドライン」の周知に取り組んでおりますが、こうした転倒災害等の防止は、作業床の段差の解消、滑りにくい床面の整備などの設備面だけでなく、労働者自身も、職場内の整理整頓に努め、自らの健康づくりに取り組むなど、労使双方のご努力がなければ実現しないので、各職場においても是非、労使一体となった取組をお願いします。

皆様におかれましては、6月の準備期間、7月の本週間を契機として、本年度のスローガン「安全は 急がず焦らず怠らず」にありますとおり、「全国安全週間実施要綱」を踏まえた労働災害防止のための基本ルールの履行確保やそれを遵守・実行するための時間的・人間的に余裕のある体制構築など、各職場における安全活動の総点検を実施していただき、安全・安心な職場を実現していただきますよう要請いたします。

兵庫労働局長 鈴木一光